

阪南市埋蔵文化財報告 XXVI
阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 XV

2000年
阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は大阪府の南部に位置し、近年大規模な住宅地の開発事業が行われ、大阪市のベッドタウンとして人口増が続いている。

当市内においては、西日本最大級の縄文時代の土坑墓群が確認された向出遺跡をはじめ、現在60数か所の埋蔵文化財包蔵地が知られています。

本書は当教育委員会が国庫補助事業として、上述の埋蔵文化財包蔵地内で、個人住宅建築工事等に先立ち、実施した発掘調査の報告書です。「記録保存」のための、わずか数m²程度の小規模な調査ばかりでしたが、それぞれの遺跡の性格の一端を知ることのできる調査もありました。こうした地道な調査ばかりでしたが、私たち自治体にとって、その地域の歴史の詳細を的確、確実に把握することが、必要なことであり、これらの調査を今後も続けていくことが、重要であると考えています。

最後に、調査に協力してくださいました関係者に感謝いたしますとともに、今後とも本市の文化財保護にご尽力を賜りますよう、お願ひいたします。

2000年3月

阪南市教育委員会
教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が、平成11年度国庫補助事業として計画し、生涯学習推進室が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、阪南市教育委員会生涯学習推進室・好義三、田中早苗、上野仁及び松本武志を担当として実施した。
3. 本書内に示した標高は、T.P.であり、方位は既製の地形図などを使用したものをお除いて磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆・編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

(調査従事者)

宇沢克之、辻野 勝、伊庭 勉、岡本利市、平阪博司、上野高夫、和田旬世、井上祥子、井上 進、福森由記、外池美渡里、滝本奈保子、池田佳世子、進藤智美、桜井三男

目　　次

第1章 歴史的環境		1
第2章 調査の成果		
第1節 馬川北遺跡	(1) 99-1区	4
第2節 馬川遺跡	(1) 98-1区他 (2) 99-9区	4 7
第3節 向出遺跡	(1) 98-5区	7
第4節 神光寺(蓮池)遺跡	(1) 99-2区 (2) 99-3区	9 9
第5節 鳥取北遺跡	(1) 98-2区	10
第6節 鳥取遺跡	(1) 99-1区	11
第7節 鳥取南遺跡	(1) 98-3区 (2) 99-2区	12 12
第8節 貝掛遺跡	(1) 99-1区	13
第9節 箱作今池遺跡	(1) 99-1区 (2) 99-3区	13 16
第3章 まとめ		17

第1章 歴史的環境

阪南市は、大阪府の南西部に位置する。阪南市の地形をその特徴で分類するとそのほとんどが和泉山脈と呼ばれる山地、その和泉山脈より派生した阪南台地とよばれる丘陵部と段丘面、その間を縫うように流れる男里川、釈迦坊川、茶屋川等の河川で形成される平野部の3つに分けられる。気候は温暖で比較的雨量が少ない地域で、約1万年前ごろから人々が生活していたと考えられる。

現在、阪南市には約60数ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が周知されている。その埋蔵文化財包蔵地と、先述の阪南台地、河川で形成される平野部とはそのほとんどが一致する。

阪南市において人々の活動が考古史料により確認できるのは、縄文時代草創期からである。神光寺（蓮池）遺跡の有茎尖頭器が揚げられるが、それらに伴う遺構等は検出されていない。その後、早期～中期の遺構、遺物は確認されていないが、後期になると男里川上流の向出遺跡で遺構、遺物が確認される。向出遺跡では後期～晚期の200基にも及ぶ土坑墓群と、深鉢、浅鉢、注口土器等の縄文土器が検出されている。また、男里川下流に位置する馬川北遺跡においても後期～晚期の土器が確認されている。この他、同流域では玉田山遺跡、自然田遺跡で詳細な時期は不明ではあるが石錐等の石器が出土している。

弥生時代になると、前期の遺構、遺物は検出されていないが、中期になると神光寺（蓮池）遺跡から方形周溝墓、それらに伴う土器、石包丁等の遺物が検出されている。後期になると、向出遺跡と向山遺跡で集落の想定ができる竪穴住居が数棟確認されている。この他、下出北遺跡、馬川遺跡、馬川北遺跡、久保田遺跡、自然田遺跡、亀川遺跡、鳥取南遺跡、箱作今池遺跡等で同時期の土器が確認されている。また、尾崎海岸遺跡において後期末の土器とともに製塩炉や多くの製塩土器が検出している。ここで述べた弥生の遺跡のほとんどが縄文時代の遺跡と同じく男里川流域に点在する。

以上のことから男里川流域には、縄文時代後期から弥生時代において集落を中心とする生活圏が想定できる。

古墳時代になると、前期の古墳は存在しないが、中期になると、市域の西部の茶屋川流域で帆立貝式前方後円墳の箱作古墳が、男里川流域で文献史料から確認できる皿出池古墳が築造される。また、亀川遺跡と向山遺跡で竪穴住居数棟が検出されている。後期になると、花折川流域に塚谷古墳群、男里川流域に高田山古墳群、玉田山古墳群が築造される。なお、現存するのは玉田山古墳群のみである。

奈良時代では、黒田遺跡、下出北遺跡、馬川遺跡、波有手遺跡、貝掛遺跡、田山遺跡、箱作今池遺跡、道弘寺遺跡等で遺構、遺物が確認されている。このうち特異なものとしては、波有手遺跡の30点余りの墨書き土器、貝掛遺跡の奈良三彩八曲長杯、田山遺跡の墨書き土器、壺、円面鏡、箱作今池遺跡の円面鏡や大型の掘立柱建物跡が揚げられる。以上の事から、波有手遺跡、貝掛遺跡、田山遺跡、箱作今池遺跡では、官衙的なものが存在していた可能性がある。一方、田山遺跡、箱作今池遺跡では、生活雑器とともに蜻蛉をはじめとする漁具が出土しており漁村

的要素が強い。また、波有手遺跡北部に位置する道弘寺遺跡からは、この時期の瓦窯跡が検出されていて、この地の字名が残る道弘寺との関係が想定される。

平安時代になると、馬川遺跡、平野寺（長楽寺）跡、向出遺跡、神光寺（蓮池）遺跡、金剛寺遺跡、田山遺跡、箱作今池遺跡等において須恵器、土師器、黒色上器をはじめとする生活雑器等の遺物が確認されている。この他、平野寺（長楽寺）跡、神光寺（蓮池）遺跡、金剛寺遺跡では瓦が出土し、その周辺に寺院の存在がうかがえる。

中世になると、農耕に関連して行われた整地の跡、鋤溝等遺構が市域のほとんどの遺跡で確認されるようになり、このころ農地が増えはじめたと考えられる。特筆するものとして、下出遺跡、田山遺跡、田山東遺跡、箱作今池遺跡、井山城が揚げられる。

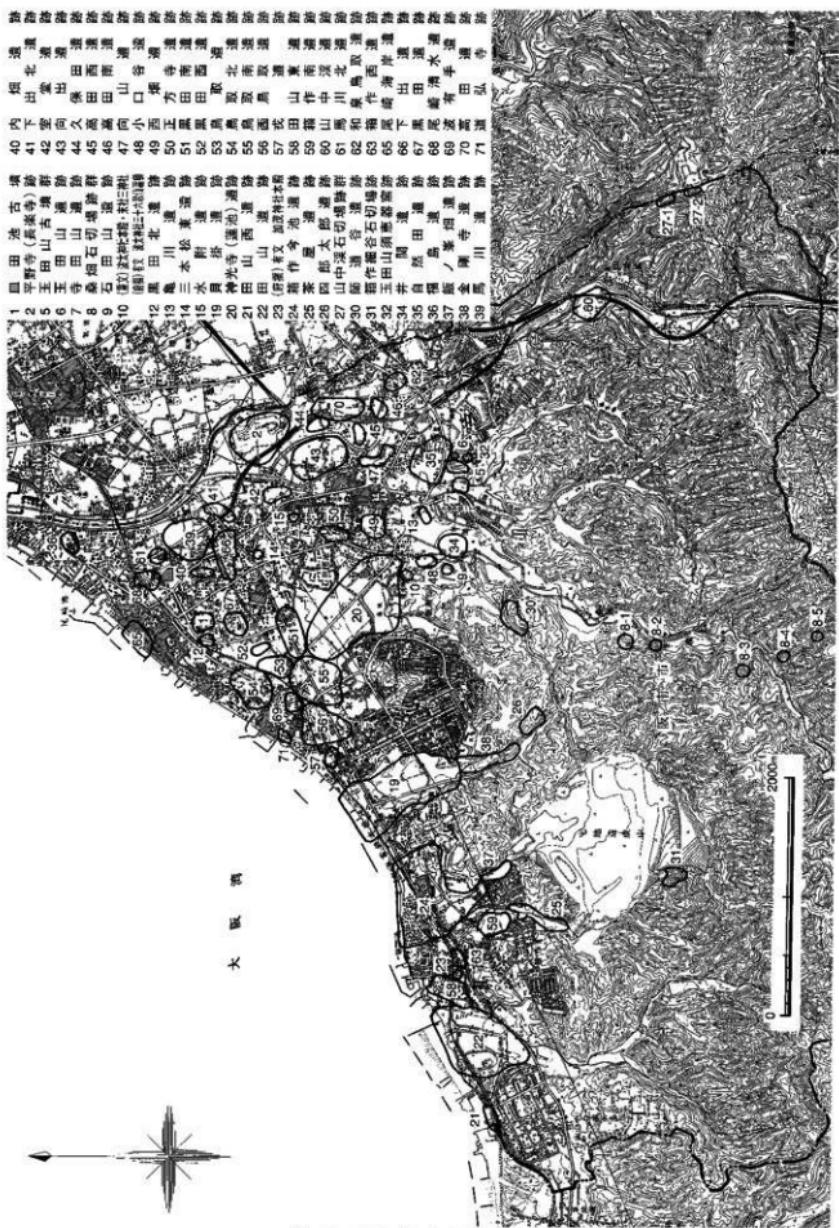
下出遺跡では、土坑墓をはじめ数十のピット等が検出され、阪南市の中世期の集落と墳墓の様相を知る上で重要な遺跡とされる。海岸部に位置する田山遺跡、田山東遺跡、箱作今池遺跡では瓦器、瓦質土器等とともに、蛸壺、土錘等の漁撈関係の遺物が出土し、さらに蛸壺、土錘を焼いたと思われる上坑が検出されている。また、これらの遺跡では、青磁、白磁等の輸入陶磁器が多く出土している。なお、市域では同時期の蛸壺焼成遺構は海岸より少し離れた馬川遺跡においても確認されている。

このころ、国人たちによって領地をめぐる攻防がくり返され、その時に築かれた山城である井山城もその存在が調査によって確認されている。

近世になると、現在の行政区域のもとなる14カ村が形成されはじめ、大坂と紀州を結ぶ街道が整備され発達し、山中村が紀州街道の宿場町として、尾崎村が浜（孝子越）街道沿いの商業の町として発展をみせる。このころ、その村々なかで明治中期で姿を消してしまったとされる「舞村」は、貝掛遺跡から建物跡や井戸跡等の村の一部が検出されその存在が確実となつた。

また、この時期新しい産業が展開され、石臼をはじめとする石製品や瓦が名産品として流通し、この石製品の材料となった和泉砂岩の採掘場であった箱作ミノバ石切場跡、箱作細谷石切場跡等の存在が明らかになっている。

以上、市内の歴史的環境を考古史料を中心にまとめた。近年、第2阪和国道の延伸、それにともなう開発により、発掘がくり返され、その歴史の全貌がすこしづつ見えはじめている。しかし、その一方、そのほとんどが記録保存にだけにとどまり、その貴重な文化遺産の活用にまでだどりついでいないのが現実である。今後、そのようなことも考慮にいれ、行政発掘調査を進めていかなければならない。



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第2章 調査の成果

第1節 馬川北遺跡

(1) 99-1区

1. 調査の概要 (第3図)

調査地は、馬川北遺跡の南端部に位置する。調査は、調査区内に $2\text{m} \times 3\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。現状地盤から約2.5mの深さまで掘削を行なったが、近年の盛土層であった。

第2節 馬川遺跡

(1) 98-1区他

1. 調査の概要 (第3～7図)

馬川遺跡は、阪南市の北西部に拡がり、北は馬川北遺跡に接する。遺跡は男里川左岸が形成する中世から近世期の遺構が集中する南西部の河岸段丘上と、弥生時代から中世期の遺構が集中する北東部の段丘下に分かれる。

今回、調査地の西南部の隣接地からは鎌倉時代の真蛸壺窯や近世墓が検出された。

調査地は段丘下の北東端部に位置する。調査は、調査区内の中央部に $1\text{m} \times 1\text{m}$ のトレンチを3ヵ所設定して実施した。その結果、遺物包含層を確認したため、掘削が包含層まで及ぶ部分について、約2.5m ×

1.5mのトレンチを18ヵ所設定して実施した。基本的な層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層暗灰茶色土（橙色土混）、第4層暗灰色土（黄橙色土混）、第5層暗灰茶色砂質土（暗橙色土混）、第6層淡灰茶色砂質土（黄色土混）、第7層は淡灰色礫混砂質土の地山であった。

2. 遺構 (第5図)

—落ち込み—

7・10・14トレンチで北及び東に向かう落ち込みが検出され、6・15・18・19・20・21トレンチは落ち込み中と思われ、肩部との比高差は平均1mほどでさらに北東部へ低くなっている。埋土は濃灰茶色砂、濃灰茶橙色砂質土が基本で、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。



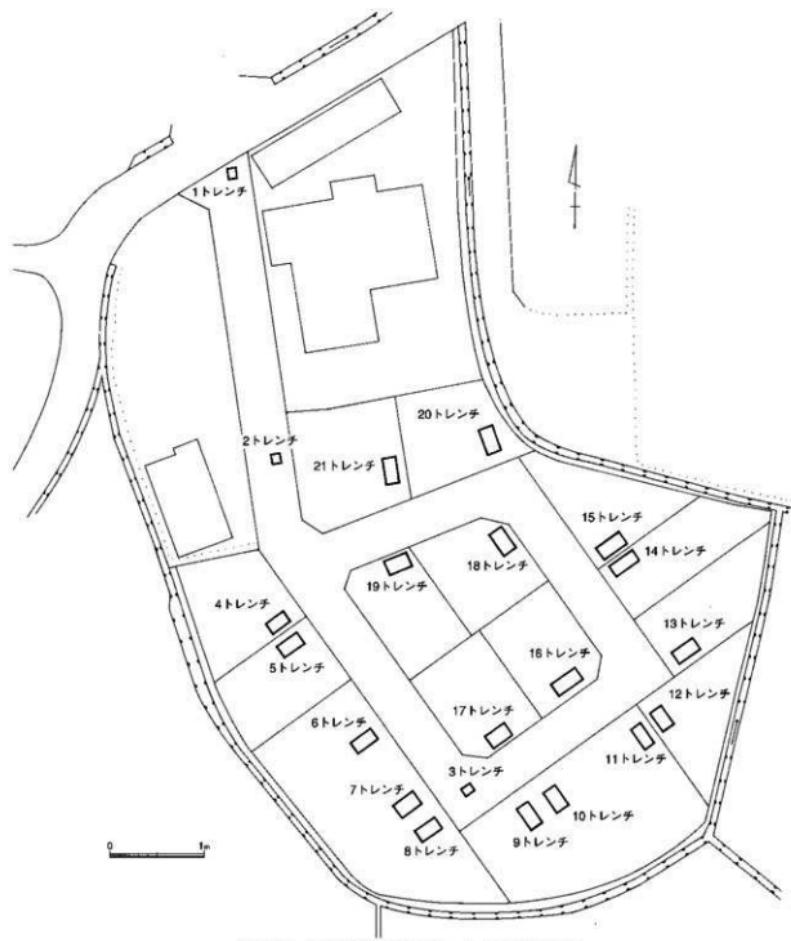
第3図 馬川北遺跡・馬川遺跡 調査区位置図

—溝—

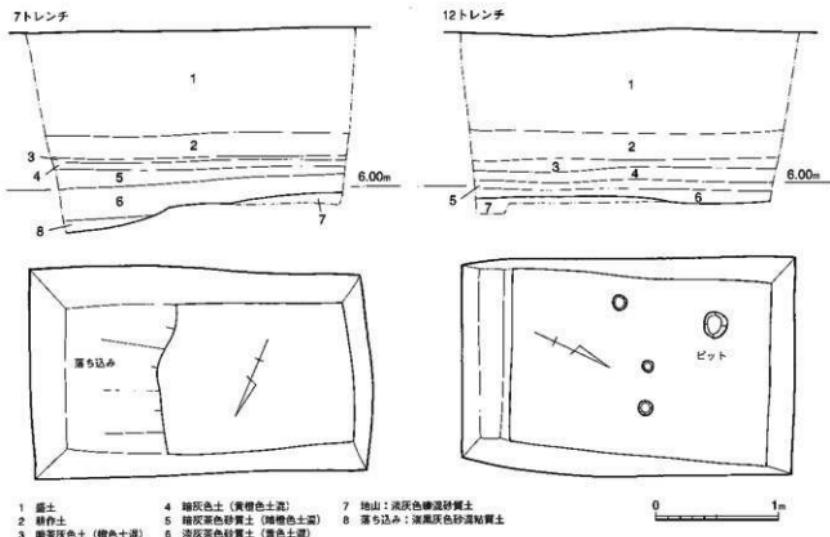
8トレンチの地山上面で溝を検出した。埋土は淡黒灰色砂混粘質土で、弥生時代のものと思われる。

—ピット—

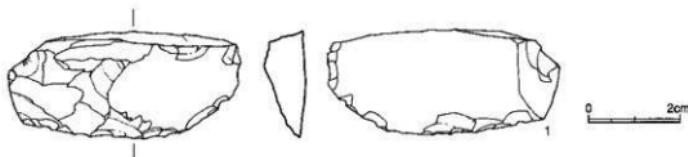
4・5・11・12・14トレンチでピットを検出した。14トレンチのピット1から弥生土器が出土したが、図示できなかった。



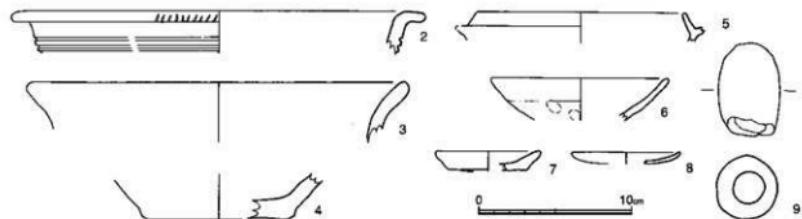
第4図 馬川遺跡98-1区他 トレンチ位置図



第5図 馬川遺跡98-1区他 7トレンチ・12トレンチ平面図・断面図



第6図 馬川遺跡98-1区他 出土遺物



第7図 馬川遺跡98-1区他 出土遺物

3. 遺物（第6・7図）

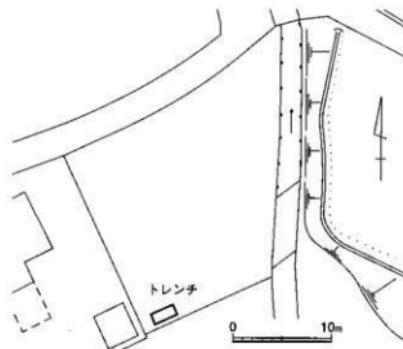
第3層から第6層で弥生時代から中世期の遺物が出土している。図化できた遺物は以下である。1はサヌカイト製の削器、2～4は弥生土器で、2は甕、3・4は壺、5は須恵器、6は瓦器塙、7は白土器皿、8は土師質土器皿、9は土師質管状土錐である。

（2）99-9区

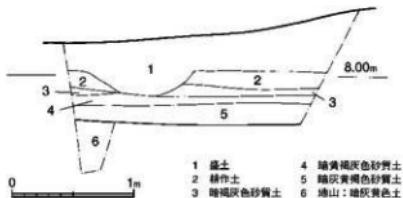
1. 調査の概要（第3・8・9図）

調査地は本遺跡の東端部に位置する。調査区隣接の調査では、中世瓦、漆焼の甕が出土している。

調査は、調査区内西部に2m×1mのトレンチを設定して実施した。基本的な層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層暗褐灰色砂質土、第4層暗黄褐色砂質土、第5層暗灰黃褐色砂質土、第6層は暗灰黄色土の地山であった。遺構は検出されなかった。第3・4層から土師器、瓦器が出土している。



第8図 馬川遺跡99-9区 トレンチ位置図



第9図 馬川遺跡99-9区 トレンチ北側断面図

第3節 向出遺跡

（1）98-5区

1. 調査の概要（第10～13図）

調査地は、向出遺跡の北部に位置する。第1章で触れた縄文時代後晩期の土坑墓群が確認された段丘は、本調査区の南側にあたる。調査は、調査区内に3.2m×1.8mのトレンチを設定して実施した。盛土、耕作土以下の基本的な層序は、第3層灰白色土、第4層淡茶色土、第5層黄茶色土、第6層灰色土、第7層暗灰色土、第8層明茶灰色土、第9層は黄茶色砂質土の地山であった。が、以下の記述のように、第7層は落ち込みの埋土である可能性もある。遺構は落ち込みを検出した。



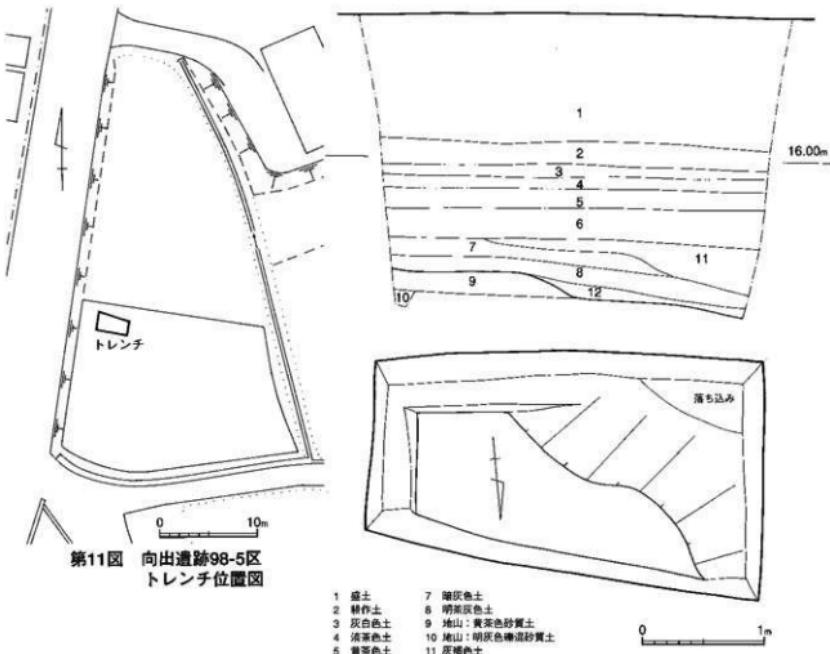
第10図 向出遺跡 調査区位置図

遺物は、第3～7層から、土師器、須恵器、土師質土器、瓦器をはじめ、製塩土器や土師質管状土錐等も出土している。

2. 遺構（第12図）

—落ち込み—

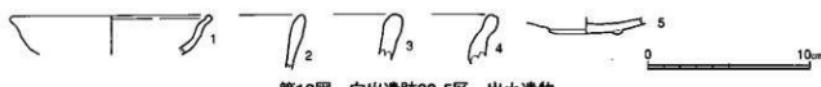
トレンチの中央部から南西方向への落ち込みを検出した。検出面は第8層上面であったが、埋土の状況をみると、第7層以下の層が南西方向に傾斜して堆積していることから、これらの層も埋土になる可能性があり、その場合、トレンチ外からの落ち込みであると考えられる。



第12図 向出遺跡98-5区 平面図・断面図

3. 遺物（第13図）

1は奈良時代の土師器坏身。第7層から出土している。2～4はいずれも、製塩土器で、やはり奈良時代頃のものであろう。5は瓦器塊底部である。



第13図 向出遺跡98-5区 出土遺物

第4節 神光寺（蓮池）遺跡

(1) 99-2区

1. 調査の概要（第14・15・17図）

調査地は、神光寺（蓮池）遺跡の南東部に位置する。調査は、調査区内に $2\text{m} \times 3.8\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。盛土・耕作土以下との基本的な層序は、第3層黄灰色土、第4層灰色礫混土、第5層は黄褐色礫泥粘質土の地山であった。遺構は、第3層上面と第4層上面で溝をそれぞれ各1つ検出した。遺物は、後述のように溝中から瓦等が、第3・4層から須恵器、瓦器、瓦等が出土している。なお、いずれも小片であり、固化しえなかった。

2. 遺構（第17図）

一溝1-

第3層上面で検出した。東西方向に流れる。幅約60cm、深さは約15cm。遺物は出土しなかった。

一溝2-

第4層上面で検出した。溝は東西方向に流れる。幅45cm以上、深さ約30cmを測る。埋土中より中世期のものと思われる土師質土器、瓦が出土しており、この時期のものと想定される。

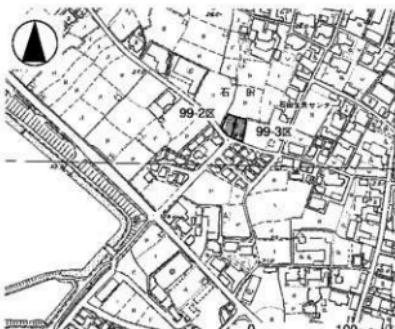
(2) 99-3区

1. 調査の概要（第14～16図）

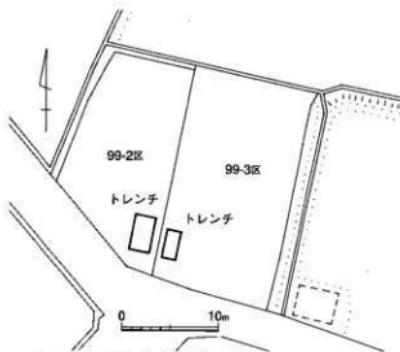
調査地は、神光寺（蓮池）遺跡の東部に位置し、99-2区に隣接する。

調査は調査区内に $3\text{m} \times 1.5\text{m}$ のトレンチを1カ所設定して実施した。基本的な層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰茶色礫混土、第4・5層は黄褐色礫泥粘質土・灰褐色礫泥粘質土の地山であった。

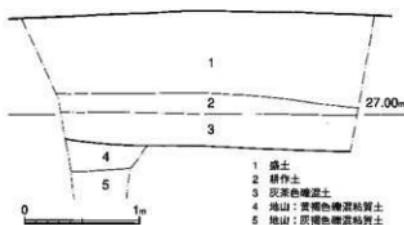
遺構、遺物は検出しなかった。



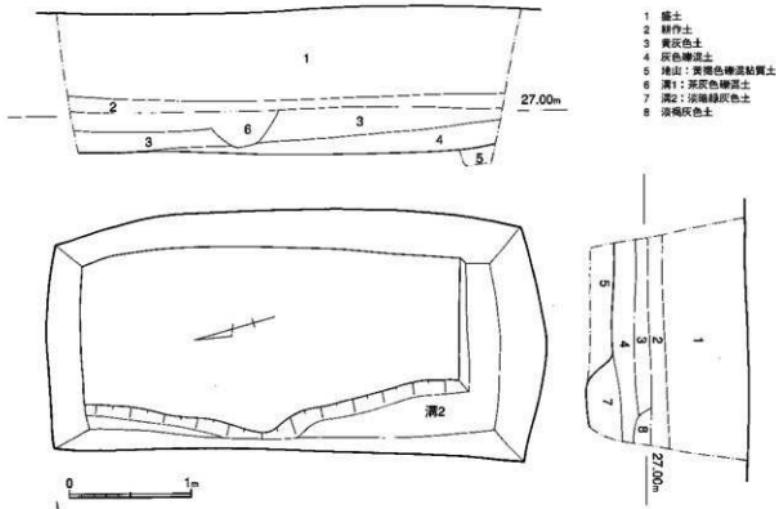
第14図 神光寺（蓮池）遺跡 調査区位置図



第15図 神光寺（蓮池）遺跡99-2区・99-3区
トレンチ位置図



第16図 神光寺（蓮池）遺跡99-3区
トレンチ西側断面図



第17図 神光寺（蓮池）遺跡99-2区
トレンチ平面図・断面図

第5節 鳥取北遺跡

(1) 98-2区

1. 調査の概要 (第18~21図)

調査地は、鳥取北遺跡の西部に位置する。調査は調査区内西部に $1\text{m} \times 1\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。基本的な層序は第1層盛土、第2層暗灰色砂質土（灰黄色粘土混）、第3層灰黄色粘土、第4層は乳灰色粘土（暗茶灰色粘土混）の地山であった。遺構は石組を検出した。第2層から須恵器、土師質靖壺、土師質土錘、近代瓦が出土している。

2. 遺構 (第20図)

—石組—

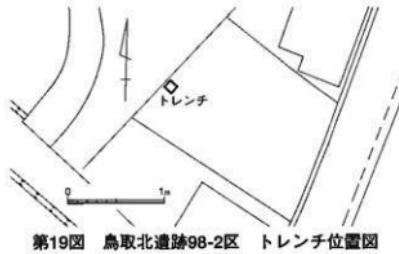
整地層に伴う石組を検出した。近代のものと思われる。

3. 遺物 (第21図)

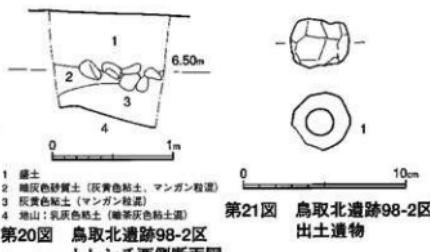
1は土師質管状土錘である。



第18図 鳥取北遺跡 調査区位置図



第19図 鳥取北遺跡98-2区 トレンチ位置図



第20図 鳥取北遺跡98-2区
トレンチ西側断面図

第6節 鳥取遺跡

(1) 99-1区

1. 調査の概要 (第22~24図)

調査地は、鳥取遺跡の南東部に位置する。

調査は調査区内に $1.7m \times 2.3m$ のトレンチを設定して実施した。盛土、耕作土以下の基本的な層序は、第3層褐色土、第4層暗茶灰色土、第5層黃灰色粘質土、第6層は黃色粘土の地山であった。遺構は、第6層上面で土坑、溝を各1検出した。遺物は、第5層から瓦器等が出土しているが、図化しえなかった。

2. 遺構 (第24図)

一土坑一

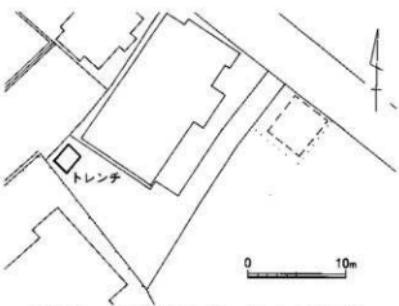
トレンチの西端で検出した。径 $40cm$ 以上、深さ約 $8cm$ を測る。遺物は出土しなかったが、埋土が第5層より古く、第5層が中世期の層と想定されることから、中世期以前のものと考えられる。

一溝一

南北方向に流れる。幅約 $40cm$ 、深さ約 $8cm$ を測る。遺物は出土しなかったが、上述の土坑と同じく、埋土の堆積状況からこれらの遺構は中世期以前のものと考えられる。

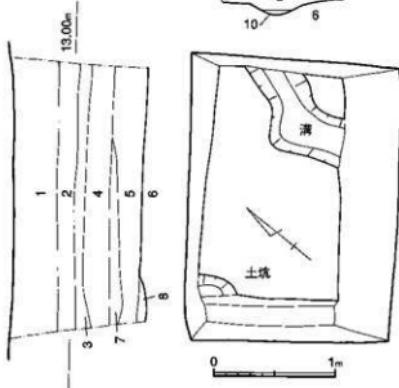
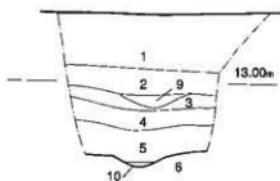


第22図 鳥取遺跡 調査区位置図



第23図 鳥取遺跡99-1区 トレンチ位置図

- 1 盛土
- 2 耕作土
- 3 褐色土
- 4 暗茶灰色土
- 5 黄灰色粘土
- 6 地山：黃色粘土
- 7 暗色粘質土
- 8 土坑：青茶灰色土
- 9 青灰色土
- 10 潟：青灰色砂糖



第24図 鳥取遺跡99-1区 トレンチ平面図・断面図

第7節 鳥取南遺跡

(1) 98-3区

1. 調査の概要 (第25~27図)

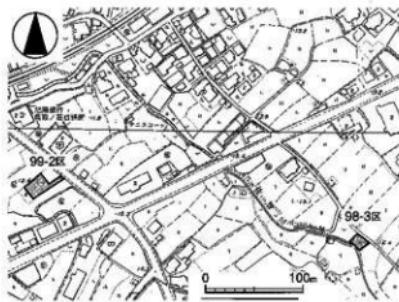
調査地は、鳥取南遺跡の南部に位置する。調査区内に $2\text{m} \times 3\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。

耕作土以下の基本的な層序は、第2層茶褐色土、第3層黄灰色土、第4層黄灰褐色粘質土、第5層灰色粘質土、第6層明灰色砂、第7層灰色粘土、第8層暗茶色粘質土であった。遺構は確認されず、遺物は耕作土中から土師質管状土錘が出土したのみである。

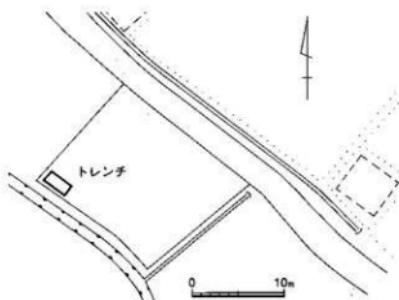
(2) 99-2区

1. 調査の概要 (第25・28・29図)

調査地は、鳥取南遺跡の西部に位置する。調査は、調査区内に $3.3\text{m} \times 2.3\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。基本的な層序は、第1層盛土、第2層褐灰色粘質土、第3層は淡褐黄色粘質土の地山であった。遺構は確認できなかった。第2層から須恵器、製塩土器、土師質土器が出土している。



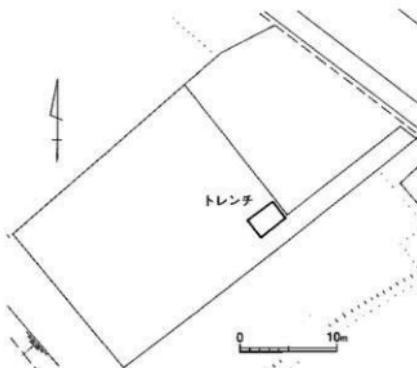
第25図 鳥取南遺跡 調査区位置図



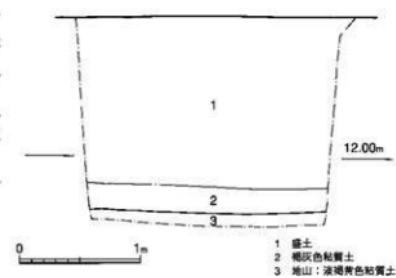
第26図 鳥取南遺跡98-3区 トレンチ位置図



第27図 鳥取南遺跡98-3区 トレンチ東側断面図



第28図 鳥取南遺跡99-2区 トレンチ位置図



第29図 鳥取南遺跡99-2区 トレンチ西側断面図

第8節 貝掛遺跡

(1) 99-1区

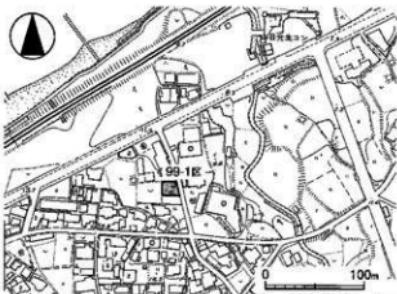
1. 調査の概要 (第30~32図)

調査地は、貝掛遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内に $2.5\text{m} \times 1.5\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。基本的な層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層明褐色砂質土、第4層淡黄灰色砂質土、第5層灰褐色砂質土、第6層は淡黄色粘質土の地山であった。遺構は、第6層上面で落ち込みを検出した。第5層から土師器、白土器が出土している。

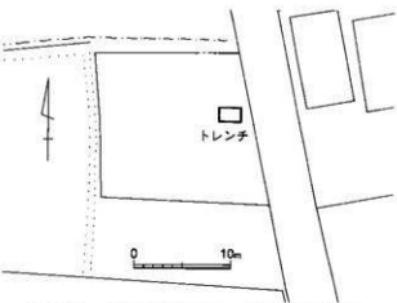
2. 遺構 (第32図)

—落ち込み—

第6層上面において北東方向に緩やかに下がっている。深さは検出面より 15cm を測り、淡黄褐色砂質土を埋土とする。第5層が堆積した時期にあたる遺構と考えられるが、出土遺物が少量であるため時期は不明である。



第30図 貝掛遺跡 調査区位置図



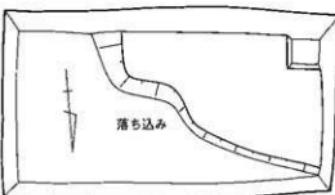
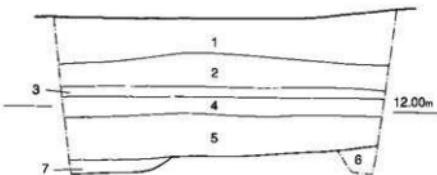
第31図 貝掛遺跡99-1区 トレンチ位置図

第9節 箱作今池遺跡

(1) 99-1区

1. 調査の概要 (第33~37図)

調査地は、箱作今池遺跡のほぼ中央部に位置する。調査地のすぐ南側では、関西空港建設に伴うニュータウン開発事業とともに区画整理事業が行われており、この事業工事に先立ち、当教育委員会や(財)大阪府埋蔵文化財調査研究センターにより、発掘調査が実施されている。第1章において述べたとおり、これらの調査では、奈良時代の大型建物をはじめ、縄文時代から中世期までの様々な遺構や遺物が確認されている。



1 盛土
2 耕作土
3 明褐色砂質土
4 淡黄灰色砂質土
5 灰褐色砂質土
6 地山：淡黄色粘質土
7 落ち込み：淡黃褐色砂質土

第32図 貝掛遺跡99-1区 トレンチ平面図・断面図

調査は、 $20m \times 7.5m$ の調査区を設定したが、工事による掘削行為を受けるのは建物の基礎と淨化槽部分であったことから、調査を実施する必要がない部分があり、井桁状に調査を行うこととなった。盛土と耕作土以下の基本的な層序は、第3層赤褐色砂質土、第4層灰色土、第5層灰色粘質土、第6層は淡黄灰色礫混粘質土の地山であった。遺構は、溝を2、ピットを4検出した。遺物は、第3～5層で瓦器、瓦質土器や土師質土器等が出土している。いずれの層も中世期のものと思われる。

2. 遺構（第35図）

—溝1—

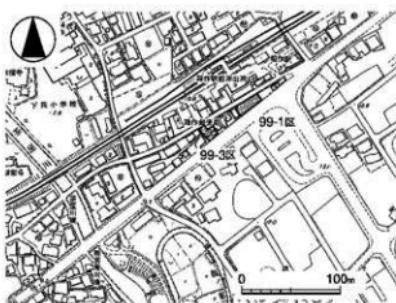
調査区の東側で検出した。南東から北西方向に流れる。幅約3m、深さ約8cmを測る。埋土中から土師質鋗壺と白土器が出土している。中世期のものと考えられる。

—溝2—

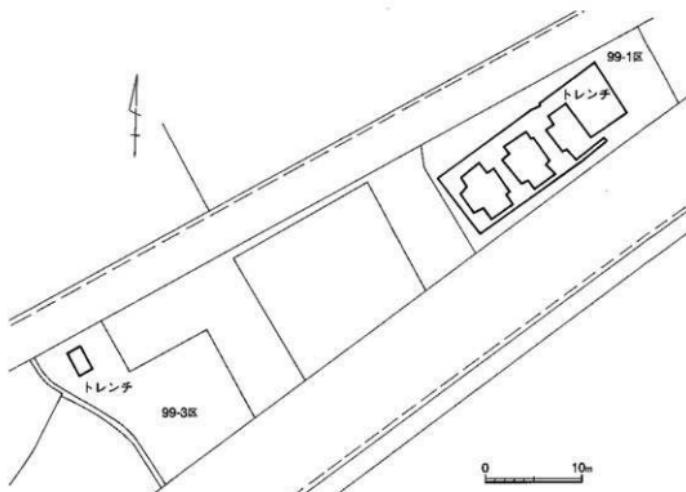
調査区の東端部で検出した。上述の溝1とほぼ並行する。幅約1.2m以上、深さ約12cmを測る。瓦器、土師質土器が出土している。溝1と同じく中世期のものであろう。

—ピット—

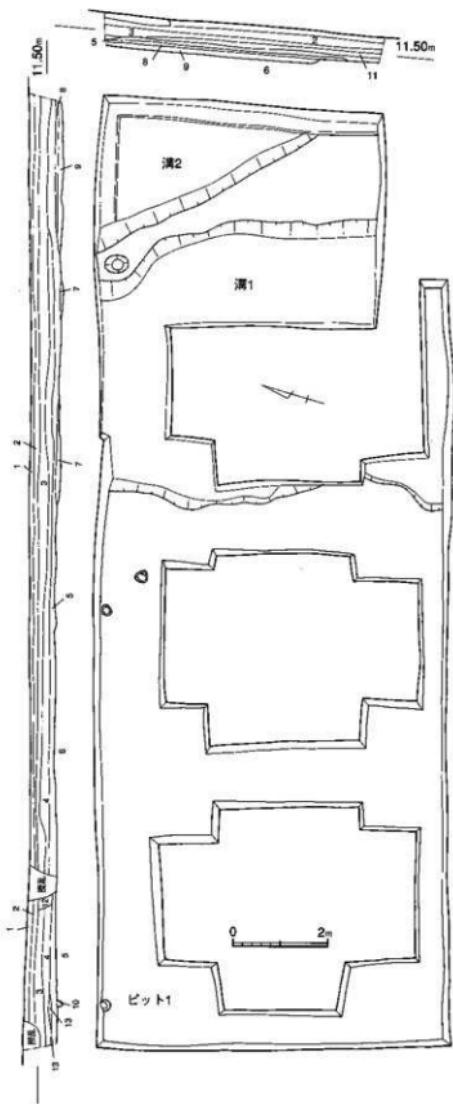
調査区の北側でいくつかのピットを検出した。規格制ではなく、住居跡等のものとは考えられない。



第33図 箱作今池遺跡 調査区位置図

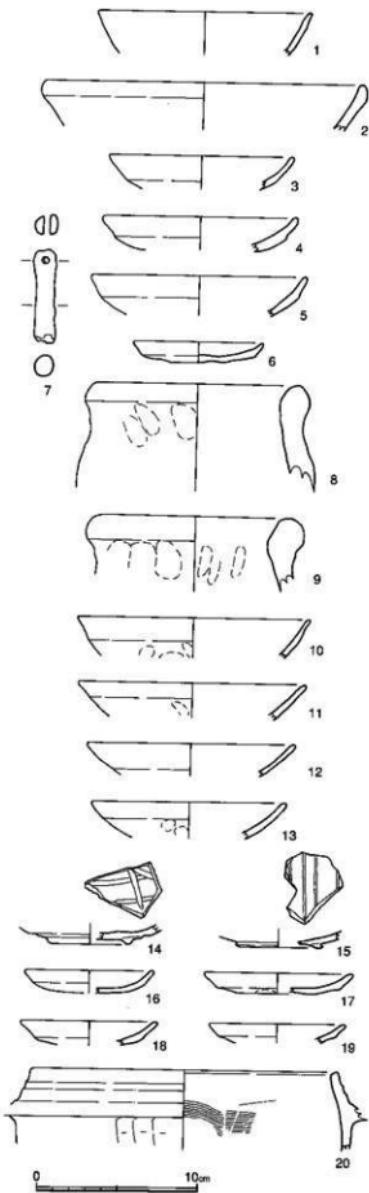


第34図 箱作今池遺跡99-1区・99-3区 トレンチ位置図



1 盛土
2 稲作土
3 香褐色砂質土
4 灰色土
5 灰色粘質土
6 地山：泥質灰色膠泥質土
7 池1：灰白色砂質土（高化學鐵）
8 池2：淡灰黃色土（マンガニ鉄混）
9 池3：黃白色砂質土
10 ピット1：茶色砂質土
11 残黄色土
12 黃灰茶色土
13 鐵質土

第35図 箱作今池遺跡99-1区 トレンチ平面図・断面図



第36図 箱作今池遺跡99-1区 出土遺物

3. 遺物（第36・37図）

以下の遺物は、遺構からの出土のものではなく、すべて第3～5層からの出土である。1は須恵器坏身。2はいわゆる東播系須恵質土器鉢。3～6は土師質土器皿。7は土師質有孔土錘。8・9は土師質銷壺。10～19は瓦器で、10～15は塊、16～19は皿である。20は瓦質羽釜。21と22はサヌカイト製の石錐。

(2) 99-3区

1. 調査の概要（第33・34・38・39図）

調査地は遺跡の中央部に位置し、99-1区の西部に隣接する。

調査は、調査区内に3m×1.5mのトレンチを1ヵ所設定して実施した。基本的な層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色土、第4層は淡黄灰色風化礫混粘質土の地山であった。

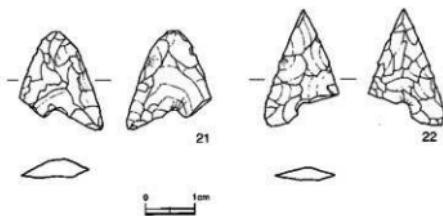
2. 遺構（第38図）

一溝—

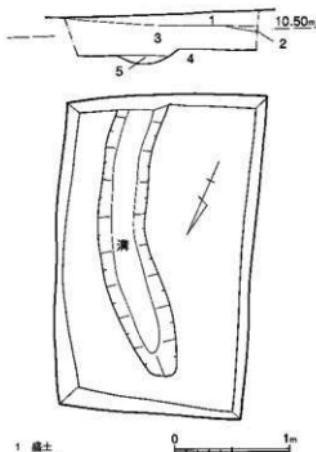
地山上面で検出した。長さ2.3m以上、幅40cm、深さ8cmを測り、埋土は灰黄色風化礫混土である。遺物は出土しなかつたが、下記のように第3層が中世期の包含層のため、中世以前の遺構と思われる。

3. 遺物（第39図）

第3層より黒色上器、瓦器、土師質土器が出土した。そのうち図化できたものは1・2の瓦器塊である。



第37図 箱作今池遺跡99-1区 出土遺物



第38図 箱作今池遺跡99-3区
トレンチ平面図・断面図



第39図 箱作今池遺跡99-3区
出土遺物

第3章 まとめ

以上、今年度の調査概要について述べた。例年通り、ほとんどが小規模であったが、馬川遺跡において、些少ながら18ヶ所という比較的まとまったトレンチ調査を実施した。この馬川遺跡98-1区他の調査について、これまでの周辺の調査状況とともに若干触れ、まとめにかえた。

馬川遺跡は、第1・2章において述べたとおり、男里川左岸の段丘上と段丘下の低地に拡がる。段丘上では、古代末以降の寺院の存在が想定されているのをはじめ、中世～近世期の遺構が確認されている。一方、段丘下では弥生時代から中世期までの遺構や遺物が検出されている。同遺跡に北接する馬川北遺跡は、やはり男里川左岸段丘下に位置し、縄文時代後・晩期や弥生時代後期の遺構や遺物が確認され、馬川遺跡の段丘下と類似した様相をみせている。

さて、本報告書に掲載した98-1区他の調査は、男里川左岸段丘下におけるものであり、弥生時代及び中世期の遺構、弥生時代から中世期の遺物が検出された。周辺の調査状況を勘案すると、この段丘下では、弥生時代～中世期以前の生活面があり、中世期に自然に埋没するか、もしくは人為的に埋め立てられ、その後に整地されたと想定されるに至った。

この調査区におけるこの他の特筆すべき事項としては、小片ながら弥生時代前期の土器（甕の口縁部）が出土している事である。市内では、これまで縄文時代晩期及び弥生時代中・後期の土器は確認されていたが、前期の土器については、今回が初めての例である。この結果、男里川左岸では、縄文時代後期後葉以降ある程度連続的に生活圏が存在していた可能性が示される事となった。

以上、非常に雑駁な「まとめ」になった事を付記しておく。小規模な調査の必要性を再認識した今年度の調査であった。

報告書抄録

ふりがな	ほんなんしまいぞうぶんかさいはつくつちょうさがいよう							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 15							
副書名								
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	26							
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁・松本武志							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習推進室							
所在地	599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678							
発行年月日	2000年3月31日							

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所材地	コ一ド 市町村番号	北緯 。 。 "	東経 。 。 "	調査期間	測定面積 m ²	調査原因
うまがわきた 馬川北	はなんなんししもいで 阪南市下出	27232	61	342131	1351436	990415	6.0 住宅
うまがわ 馬川	同上	27232	39	342125	1351443	980804~991217	70.0 住宅 分譲住宅
同上	同上	27232	39	342122	1351553	991006	2.0 住宅
むかいで 向出	じねんだ 阪南市自然田	27232	43	342056	1351452	990212~0216	6.0 住宅
じんこうじはすいけ 神光寺蓮池	いしだ 阪南市石田	27232	20	342037	1351415	990520	7.6 住宅
同上	同上	27232	20	342037	1351418	990830	4.5 住宅
とつとりきた 鳥取北	とつとり 阪南市鳥取	27232	54	342109	1351349	990330	1.0 住宅
とつとり 鳥取	同上	27232	53	342057	1351538	990702	3.9 住宅
とつとりみなみ 鳥取南	同上	27232	55	342049	1351449	990329	6.0 住宅
同上	同上	27232	55	342050	1351333	000117	7.6 住宅
かいかけ 貝掛	かいかけ 阪南市貝掛	27232	19	342029	1351346	000117	3.8 住宅
はこづくいいまいけ 箱作今池	はこづく 阪南市箱作	27232	24	342016	1351200	990705~21	75.6 共同住宅
同上	同上	27232	24	342015	1351343	990823	4.5 住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬川北	散布地	不明			
馬川	同上	弥生~中世	落ち込み・溝・ピット	弥生・土師器・須恵器・瓦器・白土器・土師質土錐	
同上	同上	中世	土坑・落ち込み・溝	土師器・瓦器	
向出	同上	不明	落ち込み	土師器・瓦器・製塙土器	
神光寺蓮池	同上	中世	溝	須恵器・瓦器・土師質土器・瓦	
同上	同上	不明			
鳥取北	同上	近代	石組	須恵器・土師質土器・土師質鉢壺・瓦	
鳥取	同上	中世	土坑・溝	瓦器	
鳥取南	同上	中世	溝	土師質土器	
同上	同上	不明		須恵器・製塙土器・土師質土器	
貝掛	同上	不明	落ち込み	土師器・白土器	
箱作今池	同上	中世	溝・ピット	瓦器・須恵器・土器・土師質土器・瓦質土器・土師質鉢壺・石器	
同上	同上	中世	溝	黒色土器・土師器・瓦器	



馬川北遺跡99-1区 トレンチ全景（西より）



馬川遺跡98-1区他 8 トレンチ全景（西より）



馬川遺跡98-1区他 7 トレンチ全景（西より）



馬川遺跡99-9区 トレンチ全景（東より）



向出遺跡98-5区 トレンチ全景（西より）



神光寺（蓮池）遺跡99-2区 トレンチ全景（南より）



神光寺（蓮池）遺跡99-3区 トレンチ全景（東より）



鳥取遺跡99-1区 トレンチ全景（東より）



鳥取北遺跡98-2区 トレンチ全景（東より）



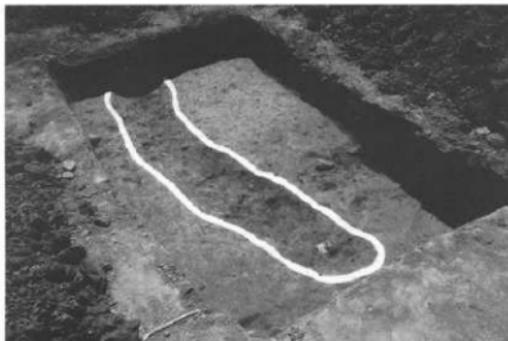
鳥取南遺跡98-3区 トレンチ全景（南より）



鳥取南遺跡99-2区 トレンチ全景（東より）



貝掛遺跡99-1区 トレンチ全景（東より）



箱作今池遺跡99-3区 トレンチ全景（北より）



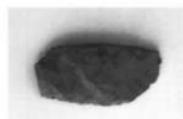
箱作今池遺跡99-1区 トレンチ全景（東より）



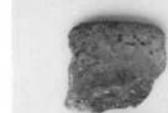
箱作今池遺跡99-1区 トレンチ全景（南より）



箱作今池遺跡99-1区 トレンチ全景（南より）



馬川遺跡98-1区他
出土遺物



馬川遺跡98-1区他
出土遺物



馬川遺跡98-1区他 出土遺物



馬川遺跡98-1区他
出土遺物



馬川遺跡98-1区他 出土遺物



馬川遺跡98-1区他
出土遺物



馬川遺跡99-9区
出土遺物



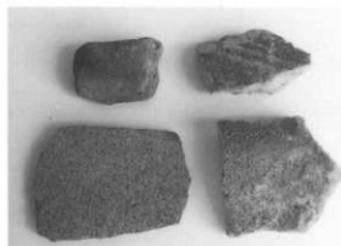
向出遺跡98-5区 出土遺物



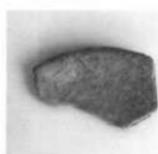
神光寺（蓮池）遺跡99-2区 出土遺物



神光寺（蓮池）遺跡99-2区 出土遺物



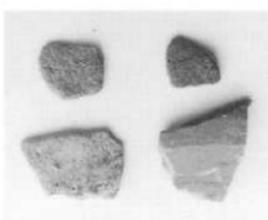
神光寺（蓮池）遺跡99-2区 出土遺物



鳥取遺跡99-1区
出土遺物



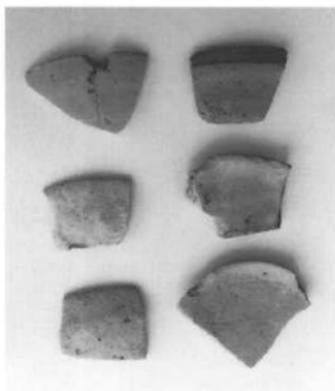
鳥取北遺跡99-2区
出土遺物



鳥取南遺跡99-2区 出土遺物



鳥取南遺跡99-3区 出土遺物



箱作今池遺跡99-1区 出土遺物



貝掛遺跡99-1区 出土遺物



箱作今池遺跡99-1区 出土遺物

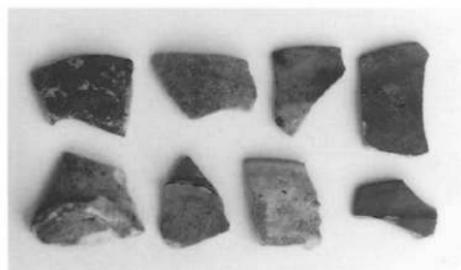


箱作今池遺跡99-1区 出土遺物

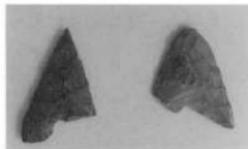


箱作今池遺跡99-1区 出土遺物

箱作今池遺跡99-1区 出土遺物



箱作今池遺跡99-1区 出土遺物



箱作今池遺跡99-1区 出土遺物



箱作今池遺跡99-3区
出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告XXII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要IV

2000年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習推進室
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54